

さいたま市・岩槻市合併記念

# 「パートナーシップさいたま開館一周年記念」 講演会

さいたま市は岩槻市と平成17年4月に合併し、パートナーシップさいたまは5月に開館一周年を迎えました。それらを記念して、瀬地山 角さんをお迎えし記念講演会を開催しました。

- 日 時 / 平成17年5月21日(土) 14:00~16:00
- 会 場 / 生涯学習総合センター 多目的ホール

「鐘の音」編集員・鈴木が記念講演会に行ってきました。夫婦で参加の予定でしたが、当日は夫が仕事に行くことになってしまいました。その日の夜、「瀬地山さんの話、どう思うのかな?」と話してみたところ…。

(鈴木 久美子)

## 講演会後記

- 瀬地山さんはあなたとほぼ同世代ね。男性だけが家族を養わなきゃいけないのは大変だといっているわ。
- そうかな? 大変だなんて意識してないよ。
- 意識してないことこそ問題だと言っているのよ。朝から晩まで仕事で家庭にいる時間が少ないとは思わない? もっと家族と過ごす時間を作って欲しいわ。
- 仕事だから仕方ないよ。家族を食わせなくてはいいなし。
- それ、男の甲斐性ってこと? 古いわねえ。
- そう。自分の父親も仕事でほとんど家にいなかったし。母親は専業主婦で家にいたから僕にとっては当たり前だよ。
- 私たちが子どもの頃は高度成長期でサラリーマンがモータリゼーションに働いていたのよ。でも今の低成長期は夫ひとりの働きでは収入面とかに「頭立て馬車のリスクがある」と瀬地山さんは警告しているわよ。



### 講師紹介 瀬地山 角さん



せちやま かく (東京大学助教授)

1963年生まれ 奈良県出身  
1986年 東京大学教養学部卒  
東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了・学術博士  
北海道大学文学部助手を経て  
1994年より現職。  
著書に「お笑いジェンダー論」  
「東アジアの家女長制」(共に勁草書房)などがある。

- 確かにリスクは大きいね。でも、職場の環境とか経営者ばかりでなくボクたち社員の意識が変わらないと無理だなあ。
- 会社での育児休業体制はどうなっているの?
- 育児が一年間で普通かな。そういえば、ある支社で育児をとって話題になった男性社員がいたな。
- そんなことで珍しがるなんて…。まだまだ職場意識は低いのね。
- それから、これからの少子高齢社会を乗り越えるための社会政策のポイントは「高齢者と主婦」だと言っているんだね。いかに働き手を増やし、税金を納めてもらえるか…。
- そう、専業主婦である私自身の問題でもあるわ。「配偶者手当や配偶者控除などの優遇は当たり前」として生活していたから耳が痛い…。
- 専業主婦を非難しているわけではないけど、社会全体としてみると不平等な制度かも。夫も妻もそれぞれ課題があるな。
- そうね。女は経済的自立、男は生活的自立を高めていかなくてはならないと思うよ。一人になっても生活していける力が必要なのね。
- それ、暗に家事を手伝って言ってない?

## 「さいたま市女性カレッジ」ってな~に?

さいたま市女性カレッジはメインテーマをもうけ、系統的に男女共同参画推進に関して学び、実践や活動をしていけるように企画されています。これは「さいたま市男女共同参画のまちづくりプラン」という計画に基づいて実施されているもので、市・市民・事業者が連携しながら人権尊重の社会づくりを進めること、そのための力を得ることを目指しています。日々変化する社会をどうとらえ、いまをよりよく多様に伸びやかに生きていくためには何が大切か、自らの意識や慣習、諸制度が性に関して公平かなどについて学んでいく機会を提供しているものです。

## 2005 開講 さいたま市女性カレッジ 学びから実践へ

メディア情報を読み解く

6月21日に第1回が開催、全18回の講座がスタート

### なぜテーマが「メディア」なの?

私たちの生きている社会は時代とともに急速に多様に変化しています。そうした変化に迅速に、柔軟に、あるいは批判的に対応していくには、学校で学んできたことや今の社会通念をベースにしているだけでは不十分です。実質的な男女平等を目指す学習の場、「さいたま市女性カレッジ2005」では、私たちが知らず知らず影響を受けている各種メディアの検証や、あふれる情報に流されない生き方を考えること(メディア・リテラシー)をメインテーマに新たな知見を獲得し、学んだ女性たちが男女共同参画推進の担い手になるよう、期待して実施されます。

いままで当たり前と思われてきたことを問い直し、新たな価値創造に向かうために共同で学び合っていきます。  
(事業コーディネーター 下村美恵子)



**Word**  
メディア・リテラシー  
media literacy  
一般にリテラシーは読み書き能力、識字と訳され、メディア・リテラシーは、メディア内容を読解・活用する能力とメディアを使って表現する能力を指します。

### <カリキュラムの内容は>

- 第1回 オリエンテーション・さいたま市女性カレッジで学び合う意味  
パートナーシップさいたま事業コーディネーター 下村美恵子
- 第2回 私たちはどう社会に生きているかⅠ -男女平等の生きやすい暮らしへ(公開講座)  
群馬大学教授 内藤和美さん
- 第3回 私たちが創る男女共同参画社会 -働く、生きる、育てる、つながる(公開講座)  
評論家 樋口恵子さん
- 第4・10・15回 グループ討議 -カレッジパートナーと学ぶ  
前期学習者
- 第5回 私たちはどう社会に生きているかⅡ -少子高齢化をどう考える  
高崎経済大学教授 塩田咲子さん
- 第6回 メディアと女性の権利  
城西国際大学講師 深澤純子さん
- 第7~9回 情報からの自立とは何か  
インフォメーションプランニング代表 結城美穂子さん
- 第11・12回 統計に見る女性・男性の現状  
高崎経済大学教授 塩田咲子さん
- 第13・14回 女性問題を知る、語るという実践  
群馬大学講師 常葉布美穂さん
- 第16回 それをドメスティック・バイオレンスという(公開講座)  
お茶の水女子大学教授 成能民江さん
- 第17回 女性学を基礎として、学びを行動に -実践事例から学ぶ  
自主学習グループ「ぶらす」代表 津田好子さん
- 第18回 男女共同参画、私のこれから、私の取り組み  
パートナーシップさいたま事業コーディネーター 下村美恵子

パートナーシップさいたまが主催する講座・講演会の情報は、「市報さいたま」でお知らせしています。